様式1（主な取組）

「主な取組」検証票

施策展開	1-(1)-エ	自然環境の適正利用	施 策	②　自然環境の持続可能な利用の促進
			施策の小項目名	○自然環境を利用するルールづくりの推進
主な取組	やんばる型森林業の推進			
対応する主な課題	③いわゆるブルー・ツーリズムなど自然環境を資源として利用する経済活動により一部自然環境の劣化がみられることから、適正な環境保全と利用のルールを定め、自然環境の保全と経済活動の両立を図る必要がある。			

1　取組の概要（Plan）

取組内容		年度別計画				
		H29	H30	R元	R2	R3
環境と調和したやんばるの森林の利活用を図るため、環境負荷低減や環境に配慮した収穫伐採方法等の手法検討や実証を行う。		環境に配慮した収穫伐採手法とその作業システムの構築			１箇所/年 県営林における環境配慮型施業の実施	
実施主体	県、市町村				やんばる地域における環境に配慮した森林施業の推進・支援	
担当部課【連絡先】	農林水産部森林管理課　【098-866-2295】					

2　取組の状況（Do）

（1）取組の進捗状況　　(単位：千円)

予算事業名　やんばる型森林施業推進事業

主な財源	実施方法	H27年度決算額	H28年度決算額	H29年度決算額	H30年度決算額	R元年度決算見込額	R2年度 当初予算額	R2年度 主な財源	令和元年度活動内容と令和2年度活動計画
一括交付金（ソフト）	委託	—	—	23,129	18,252	27,736	—		○R元年度：　環境と調和したやんばるの森林の利活用を図るため、実証試験を１件並びに作業システム及び林事前環境調査手法の作成を行った。 ○R2年度：　今後は、本事業で事業で構築した作業システムも含め、市町村と連携し環境保全に配慮した森林施業を推進していく。

予算事業名

主な財源	実施方法	H27年度決算額	H28年度決算額	H29年度決算額	H30年度決算額	R元年度決算見込額	R2年度 当初予算額	R2年度 主な財源	令和元年度活動内容と令和2年度活動計画
		—	—	—	—	—	—		○R元年度：　— ○R2年度：　—

様式１（主な取組）

活動指標名	環境に配慮した収穫伐採手法とその作業システムの構築				R元年度			R元年度決算見込額合計	進捗状況
実績値	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B		
	―	―	実証試験２件	実証試験１件	作業システムの構築	―	100.0%	27,736	順調
活動指標名	―				R元年度				
実績値	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B		
	―	―	―	―	―	―			
活動指標名	―				R元年度				
実績値	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B		
	―	―	―	―	―	―			

活動概要

県営林１箇所において高性能林業機械（タワーヤーダ）を用いた収穫伐採の実証試験を実施し、またその前後に環境調査を実施した。

平成29年度から令和元年度の成果を踏まえ、作業システムを構築した。

また、林業従事者等が行う事前環境調査手法を作成した。

進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果

実証試験における検証等の結果、本事業の目的である収穫伐採手法に係る作業システムの構築と、林業従事者等が行う事前環境調査手法の作成ができた。

（２）これまでの改善案の反映状況

令和元年度の取組改善案	反映状況
・高性能林業機械であるタワーヤーダを用いた実証試験を継続するとともに、伐採幅または延長を広げ、労働生産性及び伐採幅変更による環境負荷の変化を検証していく。 ・事前環境調査手法素案については、林業従事者や有識者の意見を反映させながら、より効果的なものに検討していく。	・伐採幅を60m程度に広げ、延長を約２倍にしたことで、収支(労働生産性)の改善がみられたほか、環境負荷についても大きな変化はみられなかった。 ・林業従事者や有識者と環境調査を行い、そこから出た意見も踏まえ、事前環境調査手法を作成することができた。

様式1（主な取組）

3　取組の検証（Check）

(1)推進上の留意点（内部要因、外部環境の変化）	
○内部要因 ・タワーヤーダを用いた実証試験を継続するとともに、伐採幅若しくは延長を広げ、収支及び環境負荷を検証していく。 ・林業従事者や有識者の意見を反映させながら、事前環境調査手法を検討していく。	○外部環境の変化 ・伐採幅を60m程度に広げ、延長を約２倍にしたことで、収支(労働生産性)の改善が見られたほか、環境負荷についても大きな変化は見られなかった。 ・林業従事者や有識者と実際に環境調査を行い、そこから出た意見も踏まえ、事前環境調査手法を作成することができた。
(2)改善余地の検証（取組の効果の更なる向上の視点）	
・作成した作業システム等を踏まえ、環境に配慮した森林施業を推進していく必要がある。	

4　取組の改善案（Action）

・引き続き環境に配慮した森林施業を推進していく。